

農業経営
アドバイザー

アドバイザー活動を支援する 勉強会・研修会を開催

各都道府県の公庫支店農林水産事業が事務局を務める農業経営アドバイザー連絡協議会では、会員のスキルアップのための研修として「農業経営アドバイザーミーティング」を実施しています。

【札幌支店】北海道農業経営アドバイザー連絡協議会「かけはし」が、オンライン勉強会を開催。農林水産省の野田洋稲氏ほか2人が登壇しました。



経験豊富な森下氏の講義には、具体的に生かせるノウハウが満載でした(札幌支店)

講師の一人である税理士法人アシビシヤス・パートナーズ代表社員
の森下浩氏は、農業専門の税理

士として、農業経営基盤強化準備金の活用法、酪農・肉用牛経営の会計処理の特徴と資金繰りの見方について、実例を交えながら説明。農業経営アドバイザーが、農業法人、金融機関、税理士をつなぐ役割を果たすためのヒントになりました。

10月13日、参加者：43人

【松山支店】愛媛県農業経営アドバイザー連絡協議会の勉強会に、公益社団法人日本農業法人協会専務理事の紺野和成氏が登壇しました。

紺野氏は2022年8月に発表された『2021年版農業法人白書』のデータを基に、現在の農業経営をとりまく課題や持続的な農業生産の実現に向けた取り組みについて説明。参加者からは、「全国の農業法人の現状を具体的な数字やグラフで見ることが理解が深まった」などの声が多数寄せられました。11月2日、参加者：20人(オンライン含む)

【広島支店】農業経営アドバイザーと農業経営者を対象に研修会を開催。株式会社ヴィレッジホーム光



メモをとるなど、熱心に耳を傾ける姿が多く見られました(広島支店)

末(じんせきこうげん) 神石高原町／水稻・野菜・和牛繁殖)代表取締役の光末幸司氏が、作成した経営計画を振り返ることの重要性について、また、農縁たねまき(三次市／シヨウガ・青ネギ生産)代表の福永丈也氏が、自身が立ち上げたシヨウガのブランド化について、それぞれ講演しました。

参加者からは「農業技術だけでなく経営管理能力も磨く必要性を認識できた」「失敗談など実例を通して学べて有意義だった」などの感想がありました。11月25日、参加者：35人

輸出・
海外展開

支援情報の提供と
先進企業の事例発表

【鹿児島支店】「支援機関からの耳より情報と先駆者の軌跡に学ぶ」と題した海外展開・輸出セミナーを開催。県と日本貿易振興機構(ジエトロ)、九州の食輸出協議会と公庫が、支援について説明しました。

凍食品製造会社を設立した株式会社ナカシン冷食と、養殖カンパチの輸出を進める株式会社小浜水産グループから、海外での自社の取り組みについて発表がありました。参加者は熱心に耳を傾け、「実体験を交えた生の声を聞いて良かった」などと評価をいただきました。10月13日、参加者：34人



公庫からは商談サポートや資金について説明しました

セミナー
経営発展を図り
「笑う農家」めざす

【横浜支店】一般社団法人神奈川県農業会議、神奈川県農業法人協会と「2022年度認定農業者等経営改善セミナー」を共催。株式会社農テラス代表取締役で農業ビジネスコンサルタントの山下弘幸氏が「2025年。笑う農家になる話。」をテーマに講演しました。

山下氏は先進的な取り組みで成功している農家（笑う農家）の事例を紹介し、相手が喜ぶ価値を加えた農産物を作り出すことが大切だと力説。参加者からは「今までのやり方に捉われず新たなチャレンジをしたい」などの感想が寄せられました。10月31日、参加者：80人



野菜農家としての経験も踏まえ、熱弁をふるう山下氏

耕畜連携

耕畜連携のあり方
課題と可能性を考える

耕種農家が稲わらや飼料作物、畜産農家が堆肥を互いに生産・供給し合う耕畜連携のあり方について、取り組みを本格化し、地域の課題解決を推進するために、意見交換会やセミナーを開催しました。

【福井支店・岐阜支店】需要が減少する主食用米に代わる用途を模索する福井県の稲作農家と、飼料高騰で粗飼料などの安定調達が喫緊の課題となっている岐阜県の畜産農家が、耕畜連携に係る意見交換会をオンラインで実施しました。この会は、広域で業務をおこなう公庫が、地域を超えた協力関係構築の仲介役となり実現したものです。

福井県の稲作農家5人と岐阜県の畜産農家2人が参加。それぞれが抱える課題を共有し、解決策を検討しました。飼料作物の具体的な取引条件、堆肥の運搬方法など、闊達な議論が展開され、今後の作付けや取引開始につながる可能性が出てきました。10月17日

【大分支店】日田市循環型農業推進協議会、日田市農林振興部と「耕畜連携推進セミナー」を共催しました。

農業・食品産業技術総合研究機構スマート農業事業推進室の恒川磯雄氏と、耕畜連携に約20年取り組む鳥取県畜産農業協同組合の遠藤憲明氏が講師として登壇。耕畜連携の仕組みづくりや現場の工夫について話しました。

講演後には、両講師に各関係機関やコントラクターとして農業を請け負っている地元の酪農家、集落営農組織などがパネラーに加わり、今後の日田市の耕畜連携のあり方を議題として意見交換会がおこなわれました。11月22日、参加者：34人



日田市の農業の未来について、さまざまな意見が交わされました(大分支店)

研修会
農業経営分析について
JA職員向け講義を企画

【高松支店】JA香川県から依頼を受け、営農支援や営農相談活動に取り組み担い手サポーターやJA職員のスキルアップを目的とした「農業経営実態分析研修会」を開催しました。公庫本店職員が講師として登壇。マーケティング手法の一つであるSWOT^{スウオット}分析を活用した農業者の実態把握・課題整理をグループワークでおこなうなど、実践的な内容となりました。

参加者からは、「農業者にアドバイスするうえでの新たな視点が得られ参考になった」などの感想が寄せられました。11月18日、参加者：21人



活気ある学びの場となりました

第16回

アグリフードEXPO東京

—国産農林水産物・食品の商談会—

ご出展者募集中

募集期間(予定)：2023年2月17日(金)～4月28日(金)

ご出展申し込みはこちらからアクセス >>>>

URL ▶ <https://www.agrifood-expo.jp/>



●展示商談会●

会期：2023年8月23日(水)～24日(木)
会場：東京ビッグサイト東4ホール

●オンライン商談会●

会期：2023年5月8日(月)～9月29日(金)

主催／日本政策金融公庫 事務局／エグジビションテクノロジーズ株式会社 (問い合わせ先：03-5775-2855)

AFCフォーラム 2023.3 冬2号

■編集 前田 美幸 今村 潤 高雄 和彦
大谷 香織 澤田 真理 鈴木 晃子
竹中 タ美

■編集協力 村田 泰夫

■発行 株式会社 日本政策金融公庫
農林水産事業本部

■印刷 株式会社 佐伯コミュニケーションズ

ご意見・ご感想をお寄せください

参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気づきの点などメール、電話、FAX、郵送でお寄せください。

メール：anjoho@jfc.go.jp

電話：03-3270-2268

FAX：03-3270-2350

郵送：

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4

大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

日本政策金融公庫 農林水産事業本部

情報企画部 「AFCフォーラム」あて

みんなの広場

◆冬1号のフォーラムエッセイ、大島花子さんの「かけがえのない食の記憶」を拝読した。花子さんが、日航ジャンボ機墜落事故で亡くなられた坂本九さんの長女だと知り、思い出したことがある。私は、松江市で開催された全国障がい者スポーツ大会に参加したことがある。そこに黄色いシャツに黄色いパンタロン姿の九さんが応援団として現れた。こやかな表情で選手たちに「頑張って」と激励していたことを記憶している。

九さんのケーキ作りのエピソードにあった花子さんが生まれて初めて嗅いだバニラエッセンスの香りは、九さんの心の優しさそのものにふれた、いつでもよみがえる思い出の香りなのだと思う。

(広島県広島市 内痢)

編集後記

④ 森林資源を循環的に利用するにあたって不可欠な「再造林」が今回の特集テーマの核心だ。国産材への期待・要請が高まる現在を好機と捉えて、再造林可能な木材価格と必要な量を安定供給することができるとの体制の両立が急務である。(今村)

⑤ 「林業公社にはもっとできることがあるはず」とは「変革」大田参事の弁業務範囲が狭いのを組織のせいとせず、柔軟にビジネスを切り拓いていく「もっとできることがある」の言葉は林業の世界だけではないと実感しました。(大谷)